



製作：有限会社サインハウス

更新日 2011/03/04

## B+COM SB213.EVO と ZUM0660 の使用方法

※ はじめに、お使いの B+COM SB213.EVO と ZUM0660 のファームウェアのバージョンをご確認下さい。  
この資料作成時に使用したバージョンは、[B+COM SB213.EVO\(t033m\)](#) [ZUM0660\(Ver2.4\)](#) です。

### ■目次

P1. 目次

P2. 何を接続できるのか知ろう！  
「プロファイルとは何か」

P3～4. B+COM SB213.EVO と ZUM0660 のペアリング方法

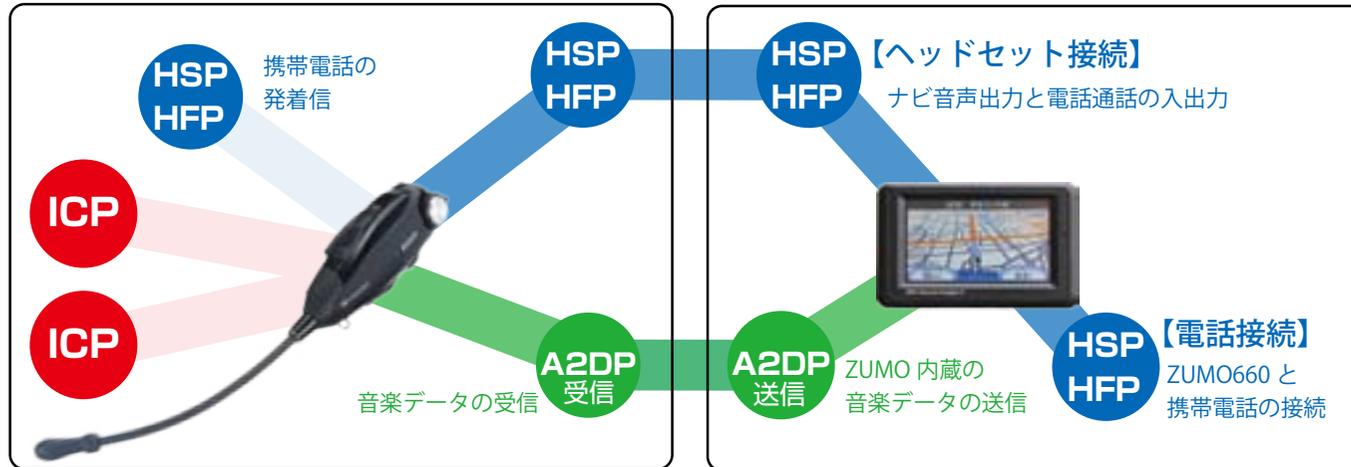
P5. 接続パターン「基本編」  
ZUM0660 と B+COM の基本的な組み合わせパターン

P6. 接続パターン「応用編」  
実用的な組み合わせとその注意点など

# 1. それぞれの機器には何を接続できるのかを知ろう！

## キーワード=プロフィール

B+COM SB213.EVO と ZUMO660 が持っているプロフィール



**ICP** 「Inter Com Profile (インターコム® プロファイル)」  
B+COM では B+COM 通話チャンネルで使用。

**A2DP** 「Advanced Audio Distribution Profile=進化した音楽配信® プロファイル」  
B+COM では AUDIO チャンネルで使用。

**HSP HFP** 「Head Set Profile (ヘッドセット® プロファイル)」  
「Hands Free Profile (ハンズフリー® プロファイル)」  
B+COM では携帯電話チャンネル(無線機、一部のナビゲーション含む)で使用。

### その他参考一例

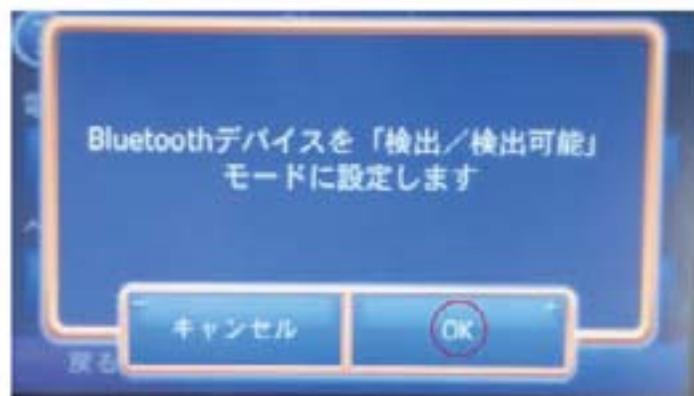
<p>デュアル トランスミッター</p>  <p><b>A2DP</b> 送信</p>	<p>i-Phon など 携帯電話</p>  <p><b>HSP HFP</b> <b>A2DP</b> 送信</p>	<p>FTM10S</p>  <p><b>HSP HFP</b> <b>A2DP</b> 送信</p>
--	--	---

## プロフィール ってなんだ？

「プロフィール」とは、見えない電気信号プラグです。無線通信ですから、有線通信のときに必要な電気コード・プラグに当たるものは目に見えない形で当然あるわけです。この「プロフィール」にも電気プラグ同様いくつか種類があり、それぞれの用途に合わせて使い分けられています。当然種類が異なるプロフィール同士では正しく通信ができないばかりか、認識できません。同じプロフィールを持った機器がそろって、初めてBluetoothでの通信が可能になります。**(※同じプロフィールを持った機器同士でも、機器間の設定差や仕様の違いによってうまく動作しなかったり、ペアリング自体うまく出来ないことがあります。)**

Bluetooth機器は電源を入れリコネクトすると、自分の知っている相手を探しに行きます。しかし初対面の相手は素通りしてしまいます。したがって事前に使用する機器同士を紹介しておく必要があります。この「紹介」が、いわゆる「ペアリング」です。ペアリングしたことのある機器を探し出し、一致するプロフィール=電気プラグで接続する。これがBluetooth機器の基本動作です。(リセット操作や、ペアリング情報の記憶可能最大数を上回った場合、ペアリング情報は消えます。)

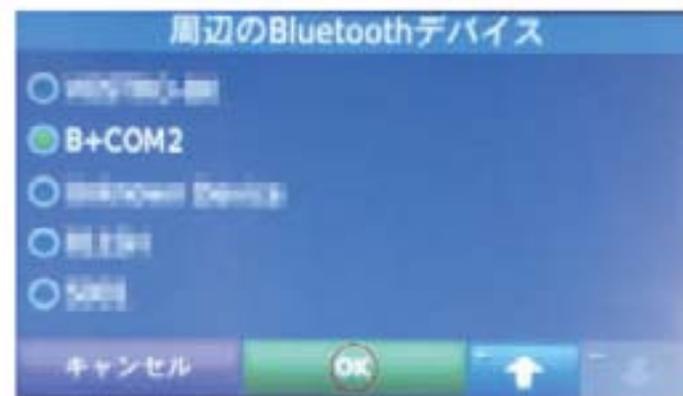
## 2.B+COM と ZUM0660 をペアリングしよう！ 基本の基本、ペアリング方法を紹介。 つづき



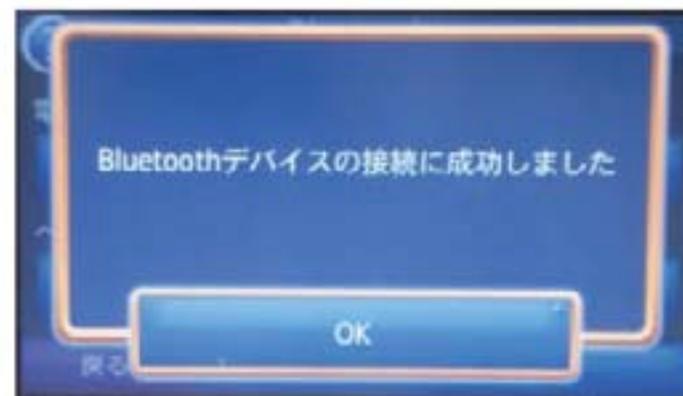
- ⑦. 『Bluetooth デバイスを「検出 / 検出可能」モードに設定致します』と『キャンセル』と『OK』のポップアップが出現する。
- ⑧. B+COM を用意し、電源 OFF の状態からメインボタンを7秒ほど長押しする。



- ⑨. B+COM の LED が赤青の高速点滅状態になったのを確認し、ZUMO の画面にて『OK』を選択し周辺の Bluetooth デバイスを検索する。
- ⑩. B+COM SB213 が検出されると、『B+COM2』と表記され、B+COM SB213.EVO が検出されると『B+COM3』と表記される。



- ⑪. ZUMO 画面にて検出された目的の機器を選択し、『OK』を選択する。
- ⑫. 「Bluetooth デバイスと接続しています そのままお待ち下さい」とポップアップが出現しますので、そのまま接続を待ちます。



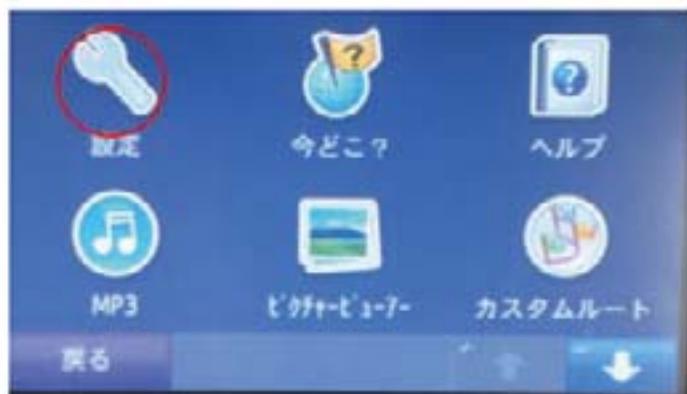
- ⑬. 接続が成功すると「Bluetooth デバイスの接続に成功しました」とポップアップが出現します。
- ⑭. 接続が成功すると B+COM の LED の赤青高速点滅が解除され、青色のみの点滅になる。
- ⑮. ヘッドセット接続完了。

## 2.B+COM と ZUM0660 をペアリングしよう！

基本の基本、ペアリング方法を紹介します。



- ①. ZUM0 の電源を入れる。
- ②. トップ画面より『ツール』を選択する。



- ③. ツール画面より『設定』を選択する。



- ④. 設定画面より画面を下にスクロールする。
- ⑤. スクロールした先に『Bluetooth』があるので、それを選択する。



- ⑥. Bluetooth 画面より、『ヘッドセット』の『追加』を選択する。  
 ※『Bluetooth』が『無効』だった場合、『無効』になっている部分を選択し、次の画面へ進む。次の画面にて、『有効』を選択し『OK』を選択する。  
 ※既に他の機器を登録している場合は、『追加』の部分が『変更』になっている。

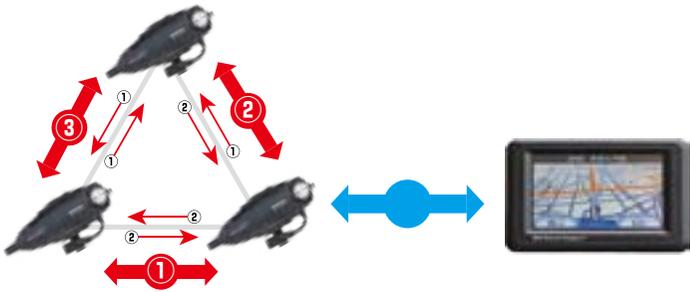
### 3. 接続パターン「基本編」

## B+COM SB2103.EVO と ZUMO660 の基本的な接続パターン

	接続パターン図	特徴・メリット	確認された症状
<b>A</b>	<p>■ZUMO660 ベーシックプラン</p> <p>213.EVO      ZUMO660      電話</p> 	<p>基本となるベーシックなプランで、動作の安定性が最大のメリット。</p>	<p>ZUMO 上での携帯電話通話から ZUMO 音声案内への復帰パターン。 通話中に B+COM に送られるはずだった音声案内が蓄積されており、通話終了と同時に怒涛のように送られてくる。</p>
<b>B</b>	<p>■2 台携帯電話プラン</p> <p>電話①      213.EVO      ZUMO660      電話②</p> 	<p>ZUMO660 上では 1 台しか携帯電話を運用できないが、B+COM のマルチプル機能を利用して もう 1 台の携帯電話を使えるようにするプラン。ビジネス用・プライベート用で電話を使い分けたい向きにお勧め。</p>	<p>B+COM 上での携帯電話通話から ZUMO 音声案内への復帰パターン。 通話中に B+COM に送られるはずだった音声案内が蓄積されており、通話終了と同時に怒涛のように送られてくる。</p>
<b>C</b>	<p>■タンデム・ペアライディングプラン</p> <p>213.EVO      213.EVO      ZUMO660</p> 	<p>タンデムライディング、ペアライディング時に基本となるプラン。 1 台のナビで複数人ツーリングに行く向きにお勧め。</p>	<p>B+COM 通話から ZUMO 音声案内への復帰パターン。 通話中に B+COM に送られるはずだった音声案内が蓄積されており、通話終了と同時に怒涛のように送られてくる。</p>
<b>D</b>	<p>■お気に入りサウンドデバイス使用プラン</p> <p>BC-DAT      213.EVO      ZUMO660</p> 	<p>ii-Pod など、すでに使用しているお気に入りのオーディオプレイヤーなど、大容量外部デバイスを使用できる点がメリット。音楽を聞かなくともレーダーを接続できる点も売り。</p>	<p>BC-DAT 使用時に ZUMO 音声案内が割り込むパターン。 音声案内の割り込みそのものは正常だが、BC-DAT からの A2DP 音声がブツブツ途切れることがある。</p>

## 4. 接続パターン「応用編」

### 基本の接続パターンを組み合わせさせてみよう！

組み合わせ図	接続説明	備考
<p>■ZUMO で先導ツーリングリーダープラン</p> 	<p>ZUMO660 と複数台の B+COM ユーザーでツーリングに行く時、ZUMO ユーザーは必ずと言っていいほどリーダー役になるでしょう。ZUMO で音楽を聴きながら、B+COM 通信を受け、音声案内が聞けるプランです。B+COM での優先順位は ZUMO660 音声案内 &gt; B+COM 通話 &gt; ZUMO660 音楽再生 です。</p>	
<p>■満足度 120%！複数デバイスプラン</p> 	<p>ZUMO 以外のデバイスも Bluetooth で音を聞きたい！外部アンプや無線機なんかでオオゴトには」したくない！そんな時はオーディオミクスチャー&amp;デュアルトランスミッターで、簡単ミックス・Bluetooth 通信。オーディオプラグを繋いでペアリングするだけのお手軽接続です。</p>	<p>別途音楽プレイヤーを使用せず、ZUMO 内蔵の音楽を聴く場合、ミクスチャーの Audio ラインが一本余ります。その際は、ZUMO660 をナビラインではなく、Audio ラインに接続して下さい。よりノイズが発生しにくい、好環境で使用できます。</p>